



進学事典

『進学事典』と「学校比較シート」であいまいだった志望理由を明確に

しずない
— 北海道・道立 静内農業高校 —



進路指導部長
工藤淳先生(右)
進路指導部副部長
佐藤育子先生(左)

School Data

生徒数/225人(男子128人・女子97人)
食品科学科3学級、生産科学科3学級
進路状況(2010年度)/大学・短大進学13.9%、専各進学16.9%、就職61.5%、その他7.7%
北海道日高郡新ひだか町静内田原797
TEL 0146-46-2101
URL <http://www.shizunainougyou.hokkaido-c.ed.jp>

2011年度3学年の進路別学習

| | 進学希望者 | 就職希望者 |
|-----------|---|-------------------------------------|
| 5/12(1h) | ①「進学事典」を使った学校比較 ②面接質問票記入(1種類) ③志望理由書作成 ※2人の先生が指導 | ①面接質問票記入(4種類) ②面接対策 ※8人の先生が指導 |
| 5/19(1h) | | |
| 5/26(1h) | | |
| 6/2(1h) | | |
| 6/16(2h) | | |
| 6/22(2h) | 進学ガイダンス | 面接対策講座 |
| 6/23(2h) | | |
| 8~9月(計4h) | 面接・小論文指導 | |

どちらも1人の先生が5~6人の生徒を受け持ち、ほぼマンツーマンで指導するため、一人ひとりの完成度は高まる。「生徒は親の希望に影響されたり、一つの情報に引っ張られがちです。今回の学習を通して、自分の選択に自信と責任を持ってほしい」と佐藤先生。

北海道静内農業高校は、全国でも有数の競走馬の育成地である日高地方の雄大な自然の中にある。日本で唯一、軽種馬の繁殖・育成・調教・乗馬などを正課に取り入れている生産科学科と、農産・畜産食品の製造・検査・流通などについて学ぶ食品科学科の2科からなる。

同校ではここ数年、進路学習の体系化に努めてきた。現在は北海道教育委員会から、「就職指導の改善に関する研究校」に指定され、インターンシップの充実にも力を入れている。また今年度まで、主にLHRで行っていたキャリア教育を、来年度から各学年1単位、計3単位で「産業社会と人間」等の時間に行えるよう準備を進めている。

「わが校の進路は就職が6割、進学が3割です。力を入れてきた就職指導は成果が上がっているのに対し、正直、進学指導は手薄な感がありました。進学志望の生

面接質問票

ダウンロード可

「ボランティアやアルバイトの経験は？」という質問に「数をこなすことより、そこから何を学んだかが大事」とあるなど、生徒が正しい方向で深く考えるヒントになるアドバイスが書き添えられている。

徒はのんびりした環境にいるせいか、体験入学への参加も消極的。スポーツ推薦など、提供された選択肢のなから安易に選んでしまうケースもあります。もっと学校の中身や学べる内容を理解し、十分検討してから進学してほしいと考え、今年度初めて、「進学事典」を取り入れました」と語る進路指導部長の工藤淳先生。

計8時間、3ステップで段階的に志望理由を固める

3学年の「進路別学習」は5・6月に計8時間設けられている(詳細は図上)。進学希望者の作業は大きく3ステップ。まず「進学事典」を見ながら付録の「学校比較シート」に気になる学校の情報を記入する。これを参考に、「面接質問票」(図下)を記入する。面接質問票とは、同校独自のワークシートで、志望理由書や入試の面

接でよく問われる質問に対する答えを埋めていく。最後にこの2つの資料をもとに、志望理由書を作成する。

同じ時間、就職希望者は自己PR、学校紹介、時事問題などについて、4つの面接質問票を完成させる。

進学希望者向けの面接質問票の最初の質問は「なぜ数ある学校の中からこの学校を志望するのか」。この質問に的確に答えることが、AO・推薦入試などでもとても大事なのだが、例年書くのに苦労する生徒が多かった。

「生徒に志望校を選んだ理由を聞くと、『優しく対応してくれたから』『先輩や友達を選んだ学校だから』などの答えが返ってきます。そんな状況の生徒が学校比較シートを埋める過程で、少しずつ情報を整理し、自分の希望を客観的に考え始めました。少人数でじっくり指導したこともあり、最後には全員が志望理由を見つけられ、面接質問票もスムーズに書けました。これは『進学事典』を取り入れた大きな成果です」と工藤先生。

進路指導部副部長の佐藤育子先生は、「仲のいい友達に流されず自分なりに考えて志望校を選んだり、本当に今の志望校でいいのか確認するために、他校を見学するなど、今回の学習に刺激を受けた様々な良い兆しが見られました。今後その場しのぎでなく、継続しているような進学情報に触れてほしい。そして自分の可能性を広げ、ものを見る目を養ってほしいですね」という。



進学事典

行事から進路へと意識を変えたい 2学年の1月に『進学事典』は有効

— 東京・私立 錦城学園高校 —



進路部主任
富山浩嗣先生(左)
進路部 英語科
石川真弓先生(右)

School Data

生徒数/765人(男子444人・女子321人)
普通科21学級
進路状況(2010年度)/大学・短大進学80.0%、専各進学12.5%、
就職1.0%、その他6.5%
東京都千代田区神田錦町3-1
TEL 03-3291-3211
URL <http://www.kinjogakuen-h.ed.jp>

■ ワークシートの記入例

幼稚園教諭1種の取得を目指しているこの生徒は、「学校比較シート」に記入することで、取れる資格は同じでも、学び方や制度が学校によってかなり違うことを発見。さらに詳しく調べ、比較検討を進めることができた。

錦城学園高校は6年前に共学化して以来、学力が向上し、進学分野が多様化するなど、進路をめぐる状況が大きく変わった。これに伴い、3学年中心だった進路指導を1学年から段階的に行うよう方針を転換。中だるみしがちな2学年でも、7月学部・学科説明会、8月オープンキャンパスへの参加、9月校内実力テスト、10月準2級を目標とした英検受験、11月外部模試、という流れで意識を高める。ところが2学年は行事が盛ん。体育祭や文化祭では中心となって活躍し、1月は修学旅行で海外に出かける。「二度とない高校生活ですから、行事には全力で取り組み、楽しい思い出を作っておきたい。でも修学旅行が終わったら、進路に集中してほしい。その切り替えをはっきりさせるため、1月に『進学事典』と付録

■ 石川先生が行った面談の内容

ケース1

安易に学校を選んでいると思われる生徒

- ①納得できる選択をするために、もっと真剣に探すよう伝えた
- ②興味のありそうな分野で、先生がおすすめの学校を紹介した

ケース2

学部学科がバラバラ。やりたいことが決まっていない生徒

- ①まずは消去法で「これは違う」という分野を考え、次に「なんとなく」でいいからやりたいことを見つけてほしいと伝えた
- ②やりたいことは勉強してみないとわからないので、選択肢を作るために勉強するように伝えた

ケース3

保育分野を真剣に志望していることが伝わってくる生徒

- ①ボランティア経験が受験で有利になることを伝えた
- ②勉強方法、おすすめ参考書、頑張してほしい科目を伝えた

の『学校比較シート』を使った進路学習を行っている」という進路部の富山浩嗣先生。

項目ごとに比較できるので志望校選びがスムーズ

「進学事典」を使った進路学習は修学旅行から帰国直後に行った。生徒は「進学事典」を見て気になる学校を選び、「学校比較シート」(図上)の項目に沿って各学校の特色を記入していった。昨年2学年を担任した石川真弓先生は、随所にこの教材のよさを感じた。「進学事典」には、学校ごとに取れる資格や学費、入試制度などがまとめて載っており、効率よく書き出せて、とても便利でした。また所在地の欄も比較には好都合。なかには

今回初めて、第一志望校の所在地が遠方だと知り、別の学校を探さすきかけになった生徒もいました」という。

「手元で」「すぐに」情報が見られるから、やる気が続く

「この作業で、多くの生徒がだいたいの志望校を絞り込めたと思います。また実力入り入試の難易度が高い学校を書く生徒が数人いたのはうれしい驚き。このタイミングで高い目標を設定すれば、スタートダッシュに勢いがつきます」と石川先生。先生はこのワークシートをもとに、クラス全員を1人20〜30分かけて面談した(詳細は図下)。各自の状況に応じて、さらに具体的なアドバイスができたという。

「もし同じ情報を大学のHPでつひつ調べようとしたら、もっと時間がかかったと思います。情報にアクセスしやすい『進学事典』を使ったからこそ、行事から進路への意識の切り替えがスムーズにできました」と富山先生。

取り組み終了後も、「進学事典」をもって職員室に進路について相談にくる生徒がいるなど、「進学事典」が手元にあるために、継続して進路のことを考える雰囲気があった。引き続き今の3学年の担任をしている石川先生は「言われなくてもパンフレットを請求し、新しい情報を仕入れて報告してくれる生徒もいます。自主性や資料収集能力など、学力のベースになる力が上がったと感じます」という。